

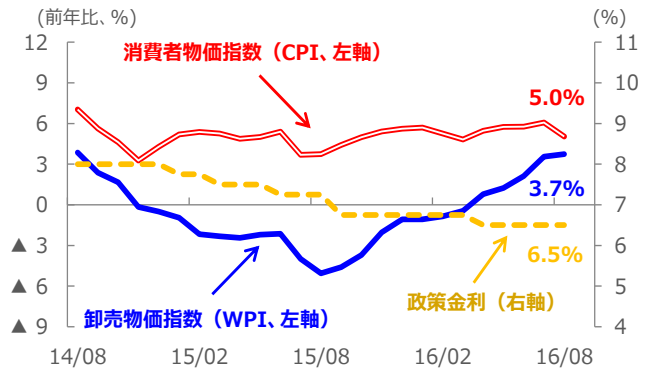
今日のトピック インドのインフレ動向

インフレ鎮静化により、利下げが見込まれる

ポイント1 消費者物価指数は鈍化 卸売物価指数は若干上昇

- 16年8月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比+5.0%と、7月の同+6.1%からインド準備銀行（中央銀行、RBI）が17年3月時点の目標としている水準まで鈍化しました。主に食品価格（野菜と豆類）の下落が寄与しました。
- 一方、8月の卸売物価指数（WPI）は、原油価格のベース効果もあり同+3.7%と、7月の同+3.5%から若干上昇しました。

消費者物価指数と卸売物価指数と金利



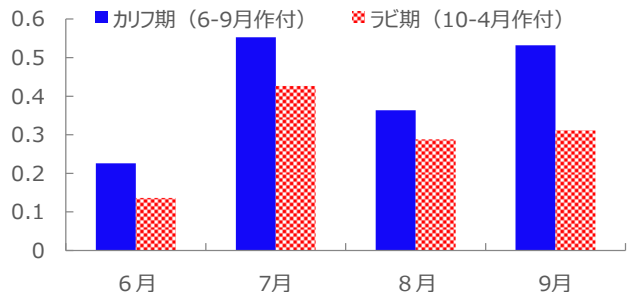
(注) データ期間は、2014年8月から2016年8月。

(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 インフレは鎮静化へ 食品価格の下落が寄与

- RBIが目標とするインフレ指標はCPIで、その構成要素の39%を占める食品の動向が注目されます。
- 今年のモンスーン期（6-9月）は、農産物生産にとって最も重要と見られる7月に十分な雨が降り、カリフ期（6-9月作付）農産物の作付面積は前年同期比+4.2%増加しました（9月9日現在）。既に物価上昇の主因と見られる野菜や豆類の価格の伸び鈍化もあり、食品インフレの鎮静化傾向が続いています。

降雨量と農作物生産の相関係数



(注) データ期間は、1967年から2013年の46年間。生産量前年比を被説明変数、前年度の降雨量の長期平均からの乖離を説明変数として回帰分析を行った場合の相関係数。

(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 RBIは利下げが見込まれ、消費拡大による景気加速も

- 足元で、RBIが17年3月時点の目標としている水準に到達したインフレ率は、食品インフレの鎮静化などにより鈍化傾向が続くと見込まれます。このため、10～12月中の利下げが見込まれています。
- RBIによる利下げに加え、順調な降雨による農産物生産増加や、8月以降の公務員賃金の引き上げを反映し、堅調な消費を中心として年後半にかけて経済は勢いを増すと見られます。インドの債券、株式、為替には追い風になりそうです。

ここも
チェック!

2016年 9月 2日 最近の指標から見るインド経済（2016年8月）
2016年 8月22日 インド中央銀行新総裁決定

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。